

都教委の理由は間違い

なぜ夜間定時制を廃止するのか、都教委の理由はどれも正しくありません。

勤労青少年が極めて少ない

第一は、「勤労青少年がいなくなつた」論です。都教委

は、勤労青少年を文科省学校統計の「就職者」でカウントしています。

「就職者」とは中3卒業時時点で就職先が決まつた生徒です。いまどき中学卒業時点で「〇〇会社に就職した」という雇用はほとんどありません。

夜間定時制の生徒たちは入学後にアルバイトを始め、7～8割の生徒が何らかのアルバイトに従事します。しかし、都教委はこうしたアルバイトを「勤労青少年」にカウントしないのです。夜間定時制生徒の大多数は、今でも勤労青少年です。

小規模で効果が上がらない

第二は、「小規模化で学習・教育環境に課題が生じている」論です。「少数の生徒同士でしか交流できない、部活動や学校行事が低調」と言いますが、ここに「授業」の言葉がありません。夜間定時制で生徒一人一人に合わせたわかりやすい授業ができるのは少人数だからです。都教委も「少人数授業」を言いますが、夜間定時制の少人数授業には言及しないのです。

また、小中学校で不登校を経験するなど困難を抱えた生徒の多くは大人

数が苦手です。「夜間定時制が少人数だから救われた」という生徒はたくさんいますが、その逆は聞いたことがありません。少人数が救いなのです。部活や行事などはいかようにも工夫できる、これが夜間定時制の教育実践です。

全・定併置の弊害

第三は、「全日制と定時制の併置は弊害がある」論です。午後5時前後に全日制と定時制の生徒が入れ替わるので施設利用や教育活動に制約がかかると言います。全日制の部活や補習授業を遅くまでやりたいということ。部活に打ち込む全日制生徒の気持ちはわかります。でも少し待ってください。多少の「弊害」があるからと言って夜間定時制を廃止していいのでしょうか？

戦後の新制高校発足時から全・定併置です。その中で全・定ともに大学進学や部活での全国大会出場などの実績も積み上げてきました。重大な弊害にはなりませんでした。併置だからこそお互いを思いやり、全・定で話し合つて解決する気風も作られました。併置はメリットもあるのです。

かつての定時制統廃合は「生徒数に比して教員数が多い夜間定時制は経済効率が悪い」論が中心でした。今回は表に出ていませんが、今でも都教委の根底にあるのではないかと思います。

(多賀哲弥・元都立定時制高校教員)